

国際戦略経営研究学会

The International Academy of Strategic Management

NEWSLETTER VOL. 5.No.1

2016/1/8



(内容)

- 1 会長新年ご挨拶
- 2 国際戦略経営研究学会第9回年次大会・研究発表大会のご案内
- 3 第8回年次大会・研究発表大会のご報告
- 4 2015年度第1回 理事会報告
- 5 編集委員会よりのお知らせ
- 6 事務局からのお知らせ

1. 会長新年ご挨拶

新年のご挨拶

会長 丹沢安治

新年おめでとうございます。学会員の皆さまも健やかな新春をお迎えのことと思います。本年も皆さまと当学会がますますの発展を遂げることを祈念するとともに、年頭のご挨拶を申し上げます。

本年は、どのような年になるでしょうか。昨年末には米連邦準備理事会が 2008 年 12 月から実施してきたゼロ金利政策を解除しましたが、その影響はいまだ定まっていません。フランス・パリにおけるテロ事件は、世界経済の活動に影を投げかけています。中国経済の減速が言われていますが、それは、ここ数年続いてきた新興国経済の成長にどう影響し、ひいては日本企業に対してどう反響するのでしょうか？

実はその他にも留意すべき二つの大きな環境変化があります。それは、中国や新興国の成長とともに登場してきた **emerging giant** (新興国の大企業) が日本企業の競合となりつつあるということであり、もう一つは **ICT** の更なる発展とともに先進国において生み出されている新しいビジネスモデルが、これまで日本企業に成功をもたらしてきたビジネスモデルを陳腐化する可能性があるということです。これらは日本企業に対して向けられた二つの挑戦です。第一に中国企業や他の新興国経済におけるいわゆる **emerging giant** との競争においては、日本企業は追われる立場となり、追う立場の新たな挑戦者に対抗する戦略を考えなければならないでしょう。第二に、例えば、ビットコインは銀行取引の形態を一変するのでしょうか？ **Uber** はタクシー業界のビジネスモデルを一新するのでしょうか？そして、私はビジネススクールの教員なのですが、種々のインタラクティブなオンライン教育コースは、大学やビジネススクールの教育機関としてのモデルをどう変えるのでしょうか？ここで日本企業はこれまでの成功をもたらしてきたビジネスモデルの陳腐化に直面しているのです。

日本企業はこれらの二つの挑戦に対し、新たな挑戦に対応するために念入りに「競合」分析を行い、これまで蓄積をしたノウハウの陳腐化を覚悟しなければならないでしょう。そして当学会は、理論的・実践的にどう変えるべきか方向性を示し、改善策を提案するベースキャンプとならなければなりません。

当学会ではそのために、アカデミックな研究者と実務家がバランスよく構成員となっているという長所を生かし、多様な研究会を展開し、電子ジャーナルによる機敏な対応、

英文誌の刊行による国際的な情報発信を行い、そして実務家、ビジネススクールの社会人院生、各大学の研究者、さらには外国人研究者による英語による統一論題シンポジウムから構成される全国大会を実施することでこの課題に応えたいと考えています。

学会員の皆さまにおきましては、本年もこの国際戦略経営研究学会というプラットフォームから多様で建設的な意見を集約し、企業戦略の研究に資するとともに日本企業が向かうべき方向性を示すことにご尽力いただければ幸いです。

2016年 元旦

2. 国際戦略経営研究学会 第9回年次大会・研究発表大会のご案内

本年度の第9回全国大会の日程、統一テーマ等が下記の通り決定致しましたので、お知らせ申し上げます。下記の要領で開催予定ですので、積極的にご参加くださいますようお願い申し上げます。

大会実行委員長 玉木欽也
大会実行副委員長 薄上二郎

2.1. 開催校と開催日

- ・開催校：青山学院大学経営学部（東京都渋谷区渋谷 4-4-25）
- ・開催日：2016年9月17日（土）～18日（日）予定

2.2. 統一テーマ

大会プログラムは未定ですが、研究発表は統一テーマに関するものと自由論題による発表の2タイプから構成されます。発表内容は、戦略経営に関するものであれば、実証研究、事例研究、分析フレームワークの提案などのいずれでも可能です。

統一テーマ：「グローバルブランド戦略と経営革新」

ブランド戦略は、グローバル化が加速化する中で、ますます重要な経営課題の一つとなっています。実際の経営活動や学術論文の中でこのブランド戦略という言葉の使われ方をみると、非常に多様であり、ブランド戦略の全体像を把握するのは非常に難しいという現実が浮かび上がります。今回の統一テーマは、ブランド戦略の多面的な側面の全体像を明らかにすること、ブランド戦略の問題点や今後の方向性を示すことにあります。

ブランド戦略の多面的な側面を企業戦略、競争戦略、機能別戦略から整理し、テーマの例を示すと以下のようになります。

- ・ 企業戦略や競争戦略からの視点：企業戦略とコーポレートブランド戦略、企業のイメージや企業価値向上との関係、コーポレートブランド戦略と経営者の役割、M&A・アライアンスとコーポレートブランド戦略、競争戦略とブランド戦略の関係、グループ経営やサプライチェーンの視点からのコーポレートブランド、ブランド価値の測定など
- ・ 経営革新・組織革新からの視点：ブランドビジョンをグループ企業内・社内に浸透させ、経営革新や統一性につなげるメカニズム、ブランド推進組織、ブランド戦略と経営革新など
- ・ マーケティングからの視点：マーケティングとブランド戦略の関係、商品・サービスブランド戦略、BtoB ブランド戦略、キャラクターブランド、消費者行動とブランドなど
- ・ 人的資源管理からの視点：ブランドマネージャーの採用・育成・活用、ブランド戦略と新卒採用、知財分野の専門家の連携の在り方など
- ・ 知的財産の視点：商標権や不正競争防止法とブランド戦略、偽ブランド品対策、コピー商品等の知的財産の保護など
- ・ 会計・財務的からの視点：会計・財務の視点からみたブランド価値評価、コーポレートブランド戦略と株価の関係、ブランド戦略と企業価値など
- ・ CSR からの視点：CSR 活動とブランドの関係、企業不祥事と信頼の回復など
- ・ 中小企業・ベンチャー企業からの視点：中小企業・ベンチャー企業のブランド戦略と経営革新、地域ブランド戦略と地域活性化の関係など
- ・ その他、最近の話題とブランド戦略の関係など

以上が統一テーマの趣旨ですが、学会活動のさらなる活発化と、企業の競争力向上のための意思決定にも貢献できると考え、多くの会員諸氏の積極的な参加を期待しております。

2.3. 発表形態

- ・ 研究発表は、統一テーマに関するもの、自由論題に関するもののいずれについても、英語、日本語のいずれでも可能です。

2.4. 募集要領

- 1) 申込み方法：学会ホームページ 大会サイトからの申込予定
- 2) 原稿の言語：英語での発表の場合は英文、日本語での発表の場合は和文
- 3) 申込み期限：2016年6月30日予定

(留意点)

- ① 発表申し込み時に「報告要旨」も提出して頂くことになりますのでご注意ください。
（規定通りに作成された「報告要旨」を伴わない申し込みは受け付けられません。）
- ② 「報告要旨」のスタイルの詳細については申込期限の2ヶ月前頃までに公表致しますが、ほぼ昨年までの方式を踏襲し、「A4（40行）で4枚以内（図表を含む）」となる予定です。

3. 第8回年次大会・研究発表大会のご報告

国際戦略経営研究学会 第8回年次総会・研究発表大会は「グローバル経営組織のイノベーション」という統一論題のもとに、2015年9月12日（土）と13日（日）の2日間、玉川大学にて開催され、活発な討論が繰り広げられました。年次総会・研究発表大会それぞれの内容は下記の通りです。

3.1. 年次総会

国際戦略経営研究学会 第8回年次総会において、以下の議題について、9月12日開催の理事会の議を経て総会で審議し、いずれも承認されましたのでご報告申し上げます。

(1) 平成26年度事業報告および収支決算についての事項

事業報告として以下の委員会の報告が行われ、収支決算について承認されました。

- ① 総務企画委員会活動
- ② 大会企画運営委員会活動
- ③ 渉外・国際委員会活動
- ④ 研究部会活動（開催回数）
 - 戦略経営理論・実践共催研究会（8回）
 - 戦略的人的資源・組織開発研究会（3回）
 - グローバル戦略部会（2回）

- ・戦略財務・会計研究会（3回）
- ⑤ 学会誌編纂委員会活動
- JOURNAL OF STRATEGIC MANAGEMENT STUDIES（査読ジャーナル）の発行、Vol.6 No.2を2014年10月に発行。Vol.7, No.1を2015年5月に発行。
 - 『戦略経営ジャーナル』（電子ジャーナル）Vol.3 No.3を2014年12月に発行。Vol.3 No.4を2015年3月に発行。Vol.3 No.5を2015年8月に発行。

(2) 監査報告についての事項

学会会則第31条に従い、田中敏行、白田佳子監事の監査を受け、「決算報告書は収支支出の状況及び財産の有りを正しく示している」ことが報告されました。

(3) 平成27年度事業計画および収支予算についての事項

これまで通りの研究会活動、学会誌の発行を継続して行うことが確認されました。

(4) 会則の変更

「本則 第5条」では、会員のタイプの1つとして「準会員 戦略経営及び関連分野を専攻する大学院学生」があり、その会費は「付則 第2条」で「5千円」と定められていましたが、これらが下記のように変更になりました。変更の目的は、ビジネススクール等、有職の大学院生の増大と共に増大してきた、身管理のための経費の増大を抑制・回避することです。

記

「本則」 第5条 準会員 定職に従事していないフルタイムの大学院生

「付則」 第2条 準会員 5千円

「学生証」および指導教員からの「定職に従事していないフルタイムの大学院生であることの説明書」を提出した大学院生。

「定職に従事していないフルタイムの大学院生であること」の具体的内容については別に定める。施行期日 2015年9月12日

(5) 監事の選任

次期監事として次の2名が推薦され承認されました。

石井宏宗 氏 サンシン電気（株）

中村正伸 氏 香川大学

(6) 会員数の現状について

正会員数	274名
準会員数	55名
顧問	2名
合計	331名

(7) 来年度の全国大会開催について

来年度の年次大会の開催校は、青山学院大学に決定しました。

(8) 理事選挙について

「役員選任規定 第12条」に従って選挙管理委員が選出され、選挙管理委員のもと理事選挙が実施されました。新理事に選出された方々は以下の通りです（順不同）。

青木英孝 浅田孝幸 伊藤富佐雄 牛丸元 薄上二郎 歌代豊 大島正克
大野富彦 岸田民樹 桑名義晴 近藤信一 咲川孝 白田佳子 鈴木研一
高橋浩 高橋宏幸 玉木欽也 丹沢安治 中村潤 永島暢太郎 西尾弘一
古屋紀人 室勝弘 安田洋史 山田雅俊 山本秀男 Remy Magnier-Watanabe
（以上27名）

(9) 会長、常任理事の選出

大会2日目の9月13日に開催された新理事による第1回の理事会において、「役員選任規定 第12条」に従って次の役員が選出されました。

会長：丹沢安治 常任理事：薄上二郎 歌代豊 咲川孝 高橋宏幸 中村潤
西尾弘一 古屋紀人

3.2. 第8回年次大会の報告

2015年9月12日(土)と13日(日)、玉川大学で第8回年次大会が開催されました。この度、本学までお越しいただいた方々にお礼を申し上げます。また、今大会開催までにわたってご支援いただいた方々にお礼を申し上げます。

昨年、中央大学後楽園キャンパスにて、本年度、玉川大学での第8回年次大会が決定されて以来、同僚の長谷川英伸先生（大会事務局）、小酒井正和先生（実行委員）とともに、開催の準備をしておりました。

大会前々日には、台風が接近しましたが、当日は晴れやかな日になりました。また当日未明には東京では震度5弱の地震があり、公共交通機関にダイヤの乱れが生じたため、初日は開始時刻を10分繰り下げる必要がありました。しかし、その後は皆様のご

理解とご協力のおかげで滞りなく大会を進行することができました。

大会には、105名（会員・非会員を含む）が参加されました。今回は、統一論題シンポジウム、記念講演、英語セッション、統一テーマセッション、自由論題セッション、院生セッションが実施され、合計34の報告がなされました。12日に Christina Ahmadjian 先生（一橋大学）と Franz Waldenberger 先生（ドイツ日本研究所）を基調講演者として、英語でのパネルセッションが実施されました。13日に奥山淑英氏（サンコーインダストリー株式会社代表取締役）を基調報告者としてお招きし、本学会会員の基調報告2名およびパネリスト2名を交えて日本の中小企業のグローバル化への対応についてパネルセッションが実施されました。さらに、奥雅春氏（株式会社 smart-FOA 代表取締役・玉川大学工学部名誉教授）による記念講演がなされました。その他のセッションでご報告成された先生方、コメンテーター、討論者、会場参加の皆様にご心より感謝申し上げます。

12日の会員総会の後には、懇親会が本学食堂にて開催されました。大会実行委員長（私、山田）ならびに本学経営学部長の大西清彦先生からの挨拶、高橋宏幸会長の乾杯の音頭が続いて、わずかながらではございましたが料理とお酒が振る舞われ、会員の皆様にご歓談頂きました。また、今大会では理事選挙が行われました。その投票結果が懇親会の途中で公表され、新しい理事メンバーが発表されました。懇親会の最後には、徳永善昭常任理事からご挨拶をいただきました。

今回の大会実行委員長としての経験から、僭越ながら、今後の課題として見えてきたものを申し上げます。第一に、統一テーマセッションに招聘するゲストスピーカーへの金銭的対応です。かねてより学会の国際化が本学会の課題の1つになっております。外国人研究者を招聘しつづけるためには、予算の捻出と会員の皆様からの報告者のご推薦が重要な課題になると思われます。これまで、限られた会員による推薦によって外国人研究者の招聘は成り立っておりました。第二に、大会システムの改善です。大会参加申込の方法の改善については今回多くの先生方にご迷惑をおかけしたことから喫緊の課題と思われます。また大会準備や当日の受付業務については、たとえばマンパワーが少ない中で開催校の近隣校との協力などが今後は必要になるかもしれません。この点、玉川大学は国際文献社様、本学会の会員の皆様にご協力いただき、本当に恵まれていたと思います。

最後になりましたが、本学会と会員の皆様のご研究のますますのご発展を祈念します。

第8回年次大会 大会実行委員長 山田雅俊

4. 2015年度第1回 理事会報告 (2015年11月8日)

(敬称略)

出席者：丹沢安治、薄上二郎、歌代豊、咲川孝、高橋宏幸、中村潤、西尾弘一、古屋紀人、青木英孝、伊藤富佐雄、近藤信一、白田佳子、鈴木研一、高橋浩、永島暢太郎、山本秀男、安部博文、木村剛、野間口隆郎、横澤公道、渡部吉昭

丹沢会長が開催に先立ち、挨拶し、開会した。審議に先立ち、報告事項として西尾常任理事より、第8回全国大会の会計報告が行われた。

1. 理事の役職分担が総務企画委員会より提案され、審議のうえ、以下のように決定された。

(敬称略)

委員会	担当常任理事	担当理事	アドバイザー/会員
総務企画	歌代豊、 西尾弘一	白田佳子、木村剛	王玲玲
学会誌編集	咲川孝、 中村潤	青木英孝、歌代豊、木村剛、鈴木研一、永島暢太郎、野間口隆郎、渡部吉昭、Remy Magnier Watanabe、安田洋史	河合忠彦
渉外・国際	古屋紀人	桑名義晴、伊藤富佐雄、浅田隆幸、安部博文、山本秀男、白田桂子(兼任)	
研究部会運営	薄上二郎、 丹沢安治	大野富彦、岸田民樹、近藤信一、高橋浩、玉木欣也、室勝弘、山田雅俊、横澤公道	
総会・大会企画 運営	高橋宏幸	大島正克、牛丸元、玉木欣也(兼任)、安田洋史(兼任)、薄上二郎(兼任)	徳永善昭

2.各委員会より年間活動計画が報告され、了承された。

(1)総務企画委員会

●2015年度年間活動スケジュールが報告され、承認された。

(2)学会誌編集委員会

●2015年度年間活動スケジュールが報告され、承認された。

(3) 渉外・国際委員会

中長期計画に関する提案報告があった。

(4) 研究部会運営委員会

以下の事項が承認された。

- 学会ホームページにおける研究会に関する記載と実際に展開されている研究会活動とに乖離があるため、2013年、2014年実績に合わせて書き換える。
- 研究会活動は、研究部会と研究会とから構成する。研究会は、参加人数などの活動実績が明らかである場合には研究部会に格上げする可能性を持つ。
- マーケティング戦略研究部会、法務研究部会を設置する。世話人は丹沢会長が学会メンバーから依頼する。
- 田中敏行会員が提案する国際比較課税研究会は「研究会」として設置を認める。

(5) 総会・大会企画運営委員会

- 担当理事として2016年度全国大会開催校実行委員会のメンバーから玉木欣也理事、薄上二郎理事、安田洋史理事が兼任として加わることが承認された。
- 2017年度の10周年記念大会に向けて概要案を作成することが承認された。

(6) その他審議決定事項

- アドバイザーは、理事会に出席することができることが承認され、規則変更を行うよう総務企画委員会に依頼・委託された。

5. 編集委員会からのお知らせ

編集委員会では、本年度、以下のような当学会誌の刊行を予定しています。

Journal of Strategic Management Studies の刊行予定について

Journal of Strategic Management Studies (JSMS) については、2016 年度は以下の刊行予定です。

- (1) 2016 年 4 月、2015 年 9 月の全国大会のテーマに関する特集号。つまり、*a special issue organizational and innovational issues today for multinational and small companies,* Vol.8, No.1. このテーマの英語パネルセッションに基づき、招待論文が掲載されます。
- (2) 2016 年 9 月、特集号。つまり、*a special issue on global strategic management,* Vol.8, No.2. 同時に、自由論題論文をも掲載します。

戦略経営ジャーナルの刊行予定について

日本語、電子ジャーナル雑誌『戦略経営ジャーナル』については、以下の刊行予定です。

- (1) 2015 年 12 月（刊行済み）、特集号「特集 地方創生と首都圏とによるインバウンド戦略」4 巻 1 号。
- (2) 2016 年春、2015 年 9 月の全国大会のテーマ「グローバル経営組織のイノベーション」の特集号、4 巻 2 号。この日本語のパネルセッションに基づき、招待論文が掲載されます。同時に、自由論題論文も掲載される予定です。
- (3) 2016 年夏、会計学関連の特集号、4 巻 3 号。同時に、自由論題論文も掲載される予定です。
- (4) 2016 年秋、特集号「(仮題) 定性的実証研究」、4 巻 4 号。同時に、自由論題論文も掲載される予定です。

JSMS、戦略経営ジャーナルへの自由論題論文の随時、投稿募集

当学会では、英字学会誌である Journal of Strategic Management Studies (JSMS) 及び日本語電子ジャーナルである戦略経営ジャーナルを発行しています。

これらの学会誌におきましては、年間を通しまして、自由論題論文の募集をしています。会員の皆様におかれましては、自由論題論文を JSMS、戦略経営ジャーナルへ奮って投稿されますようお願い申し上げます。

実務家からの「特別寄稿」

実務家からの哲学、考え方、ケース等について、投稿を頂く「特別寄稿」をも設定しました。従来、当学会誌では、当会員からの理論的、実証的研究の掲載を主な目的にしてきました。これに加えて戦略経営の経験、造詣が深い実務家から、その考え、最新の情報を提供してもらい、当会員との間でそれらを共有し、学会誌の内容を豊かにしたいと思えます。よって、この度、実務家からの「特別寄稿」を設けることにしました。具体的には、以下のようなことを想定しています。当学会の部会にて実務家に参加してもらい、会員との間で情報を共有しています。特別寄稿では、実務家に、部会で話されたことを、文章にして頂き、「特別寄稿」として学会誌に提供をしてもらいます。

特別寄稿をして頂く、適切な方がいらっしゃいましたならば、編集委員会（咲川編集委員）までご連絡ください。

著書、訳書の紹介、及び書評について

(1) 概要

本会員が出版した自身の学術書（単著、あるいは共著の代表者の場合）、あるいは学術書の訳本（単独、あるいは代表の場合）について、本人からの希望がある場合、あるいは他の会員からの推薦があり本人が承諾した場合には、下記の手続を経てその紹介を学会ニューズレターで行います。

学会電子ジャーナル誌「略経営ジャーナル」にて書評の掲載を希望する場合には、下記の手続きによって編集委員会が掲載は適当であると判断すれば、掲載します。紹介、書評される本または訳本は、編集委員会が受け取った時点で、出版されて過去1年以内とします。

(2) ニューズレターでの本、訳本の紹介の場合

会員は自身の著書あるいは訳本につき紹介を希望する場合には、著書あるいは訳本を、咲川編集委員宛て（以下に住所を掲載）に郵送して下さい。編集委員会が紹介をしても良いと判断した場合には、著者あるいは訳者に対して、著者名、著書、出版社名、値段に加え、本あるいは訳本の内容紹介（400字以内）をして頂きます。紹介掲載の判断基準は、*Journal of Strategic Management Studies* の以下の規定に従うものとします。

The mission of JSMS is to advance theoretical and practical knowledge centering around strategic management and to publish articles that are in line with, and would help achieve, this mission.

(3) 戦略経営ジャーナルでの書評の場合

本会員が自身の著書、訳本の書評につき掲載を希望する場合は、その図書を学会編集委員に郵送して下さい。具体的には、咲川編集員の大学の住所（〒950-2181 新潟市西区五十嵐2の町 8050 新潟大学・人社系棟内 咲川孝宛）に郵送して下さい。

学術関連の図書に限定して、編集委員会が一定の基準を達成していると判断した場合に、その本あるいは訳本の書評を戦略経営ジャーナル誌に掲載します。この場合も、判断の基準は、以下に基づくものとします。書評は、その分野に近い本学会員が担当します。

The mission of JSMS is to advance theoretical and practical knowledge centering around strategic management and to publish articles that are in line with, and would help achieve, this mission.

6. 事務局からのお知らせ

(1) 会費納入のお願い

日頃より学会活動にご尽力いただきありがとうございます。学会活動は会員の皆様の会費がベースです。皆様には、本年度の学会費納入をお願いいたします。

過年度分の学会費が未納の場合には、今後発刊する学会誌が送付されません。また、会費を3年間滞納した場合には会則第8条第4号に基づいて会員資格が失われます。

以上をご留意の上、早期の会費納入につきましてご協力をお願いいたします。年会費は正会員 8,000 円、準会員（学生） 5,000 円です。指定口座は次のとおりです。

銀行名 : ゆうちょ銀行 口座番号: 00120-3-585264

口座名義: 国際戦略経営研究学会

なお、会費納入に当たっては必ずフルネームをご記入下さい。特に校費等で振込を行う場合など、大学から学会宛に直接振り込みが行われる際にはご注意下さい。

(2) 住所等変更の際のご連絡のお願い

所属・ご住所・メールアドレス等を変更された方は、速やかに学会事務局までご連絡ください。準会員で入会された方も、学生の身分を離れた場合には正会員になりますので、学会事務局までお申し出下さい。

(3) 活気溢れる学会運営のため、お知り合いの方には是非当学会への入会をお勧め下さい。ご不明の点がありましたら、下記学会事務局までお問い合わせください。

#####

国際戦略経営研究学会 (IASM)

〒162-0801 東京都新宿区山吹町 358-5 アカデミーセンター

TEL:03-5937-0470 FAX:03-3368-2822

Eメール secretariat:iasm.jp (:の場所に@をお入れください)

#####

写真 : SL 復活運行 新山口～津和野 2016.1.3